

各 位

会 社 名 株 式 会 社 倉 元 製 作 所
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鈴 木 聡
 (コード番号 5216)
 問 合 せ 先 取 締 役 経 理 部 長 関 根 紀 幸
 電 話 0228 32 5111

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 2 月 12 日に公表した平成 22 年 12 月期の第 2 四半期累計期間および通期の業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正

（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日）

〔連結〕

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	5,000	200	100	100	6 円 73 銭
今回発表予想 (B)	5,741	743	557	488	32 円 83 銭
増減額 (B - A)	741	543	457	388	-
増減率 (%)	14.8	271.5	457.0	388.0	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 12 月期第 2 四半期)	6,906	540	554	844	85 円 40 銭

〔個別〕

（単位：百万円）

	売上高	加工売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	3,200	2,600	100	30	50	4 円 95 銭
今回発表予想 (B)	3,910	2,717	266	94	227	15 円 32 銭
増減額 (B - A)	710	117	166	64	177	-
増減率 (%)	22.2	4.5	166.0	213.3	354.0	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 12 月期第 2 四半期)	5,875	2,223	543	573	1,015	102 円 62 銭

2. 平成 22 年 12 月期通期業績予想の修正

（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

〔連結〕

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,300	800	600	600	59 円 45 銭
今回発表予想 (B)	11,000	1,300	1,000	900	58 円 03 銭
増減額 (B - A)	700	500	400	300	-
増減率 (%)	6.8	62.5	66.7	50.0	-
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 12 月期通期)	13,850	192	358	881	88 円 78 銭

〔個別〕

(単位：百万円)

	売上高	加工売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	6,600	5,600	400	300	300	29円73銭
今回発表予想(B)	7,300	5,700	600	300	500	32円24銭
増減額(B-A)	700	100	200	0	200	-
増減率(%)	10.6	1.8	50.0	0	66.7	-
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期通期)	11,219	4,870	505	670	1,058	106円63銭

3. 修正の理由

第2四半期累計期間業績

〔連結〕

連結売上高につきましては、主力である〔ガラス基板加工販売事業〕においてスマートフォン等の中小型液晶パネルを搭載した機器の市場拡大により、液晶ディスプレイ用ガラス基板の受注が増加したほか、〔精密研磨布等製造販売事業〕もハードディスクドライブのディスク向け精密研磨布の受注が堅調に推移したことから、前回発表予想に対し741百万円増の5,741百万円となる見込みであります。

利益面では、〔ガラス基板加工販売事業〕〔精密研磨布等製造販売事業〕の売上増に加え、前期より進めている原価低減・生産性向上等の収益性向上活動の成果により、営業利益は前回発表予想に対し543百万円、経常利益は同457百万円、四半期純利益は同388百万円増加する見込みであります。

〔個別〕

個別の売上高につきましては、中小型液晶パネルの需要増により受注増となりました。なお、加工売上高に対し売上高の伸びが大きいのは製品構成において材料費が有償のものが増えたためであります。

利益面では、人件費の削減や工場の集約・再編などの施策の効果により、前回発表予想に対し営業利益で166百万円、経常利益で64百万円、四半期純利益で177百万円の増加となる見込みであります。

通期業績

欧米諸国において景気減速への警戒感が強まっているほか、新興国においても景気の息切れが懸念されており、第3四半期以降の経済動向につきましては、一層不透明感が増している状況となっております。

液晶ディスプレイ業界におきましても、液晶パネルの価格下落や在庫の増加の兆しがあるほか、原材料等の価格上昇が懸念されるなど予断を許さない状況となりつつあります。

このような状況のなか、第2四半期累計期間業績見込と第3四半期以降の受注動向を勘案し、前記のとおり通期業績予想を修正いたします。

(ご参考)

「1株当たり純利益」につきまして

1株当たり純利益は、〔純利益÷期中平均株式数〕で算出しております。

当社は、平成21年11月4日に「株式会社倉元製作所第1回新株予約権」を発行し平成22年3月4日に全ての新株予約権の行使を終了しておりますので、期中平均株式数を以下のとおり修正しております。

前回発表予想時点	10,092,382株
今回発表予想時点(第2四半期末)	14,866,968株
今回発表予想時点(通期末)	15,509,916株

以上

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。